

幼保小の 架け橋 プログラムだより

このお便りは、横浜市の「架け橋プログラム」の一環として発行しています。架け橋期の保育・教育の充実のために、みなさんの取組に生かしてください。

4月8日（月）、満開の桜の中、新1年生が少し緊張気味に校門をくぐってきました。

スタートカリキュラム研修動画に登場した永田台小学校では、一体どのような入学式が行われたのでしょうか。実際に伺って取材してきました！

園との違いに戸惑わないように、「名前の下に入れてください」の表示をしました。



架け橋プログラムだよりvol.5
「園のくつばこ、学校の靴箱」参照



受付を済ませるとそのまま体育館へ。1年生は保護者の方と並んで座っています。全員が揃うまでの時間は、トイレに行ったり、きれいなステージを前に写真撮影をしたりと、ゆったりと過ごしています。



ステージに登場した職員はみんな笑顔。

「野球のバットかな～？」給食調理に使う大きな泡だて器を見せてくれた先生。1年生からは笑い声と「ちがうよ～！」という大きな声。「明日からみんな、探してみてくれる？」という校長先生の声に「はい！」と元気な声が返ってきました。

最後まで子どもの声と笑顔があふれる入学式でした。



教室に向かう廊下で、最初のミッション「金魚」を発見し、近くのお友達と「あったー」と笑い合う姿が見られます。声がかげやすくなったのでしょうか、教室に入ると自分の名前の書かれた机を教え合いながら見付けていました。

式が始まりました。すると校長先生のお話中に、「校長先生、お荷物が届いています！」とアナウンスが入り、「カニカニ宅配便」が登場です（この内容は、実践事例集第9号でも紹介されています）。箱の中から出てきたのは「1年生の皆さんへ」のお手紙。そこに書かれているのは「さがしてみてね」というメッセージと3つのお宝でした。



受付の時の緊張した顔が嘘のように、子どもたちは教室で近くの子と笑い合ったり、教科書が入った袋をのぞき込んだり。

「誰のための入学式だろう？」と改めて考えた時、子どもが「明日も学校に行くのが楽しみ！」と思える式の在り方を考えるきっかけとなりました。